

各署の取組

小清水原生花園の風景回復対策事業について

網走南部森林管理署

【はじめに】

網走南部森林管理署は、オホーツク総合振興局管内南東部に位置し、東は知床半島、南は阿寒湖・屈斜路湖・摩周湖に接する7市町にまたがる国有林約135.8千haを管理しています。

管内国有林には、知床国立公園、阿寒摩周国立公園、網走国定公園が含まれ、羅臼岳、斜里岳、藻琴山、小清水原生花園、神の子池、津別峠、美幌峠、知床峠など、風光明媚な観光地が数多くあります。また、知床半島は世界自然遺産にも登録されています。

【網走国定公園と小清水原生花園】

網走国定公園は、1950年に道立公園に指定され、その後自然公園法制定に伴って、1958年に国定公園に指定されました。大小7つの湖沼と砂丘、原生花園、丘陵からなる自然豊かな地域です。その中でも小清水原生花園はオホーツク海と濤沸湖に挟まれた約8kmにわたる細長い砂丘上に形成された国有林で、天然の花畑が広がっています。春から秋にかけてはハマナスやエゾスカシユリなど多くの植物が咲き誇っています。

遠くには藻琴山や知床連山を望むことができるほか、オホーツク海と濤沸湖に挟まれた中をJR釧網本線が走るという風景も特徴となっています。



エゾスカシユリ



原生花園を走るJR釧網本線

【風景回復対策事業】

小清水原生花園では近年、野火の発生や家畜放牧等による攪乱の減少、外来種の侵入などの影響により、美しい花々が衰退傾向にあります。このため、小清水町、オホーツク総合振興局、網走南部森林管理署の3者が連携し、人為的な火入れを実施することで、かつての景観の回復を図る「風景回復対策事業」に取り組んでいます。本事業は、対象区域を4ブロックに分け、毎年1か所ずつ火入れを実施しています。

【今年度の火入れ】

今年度は5月13日、網走側1.5kmの区間において火入れを行いました。

前日まで気温が高く、原生花園は完全



火入れの様子

乾燥しており、近年においては最高のコンディションの中での作業となりました。当日は朝4時30分、現地駐車場に約60名が集まり、国道及びJRを一時通行止めとしたうえで、1.5kmを10区画に分けて実施しました。森林管理署は網走側の3区画を担当し、線路と国道の間で火入れを行い残火処理を実施した後、線路を渡り、海側に向けて火入れを行い、同様に残火処理を行いました。

その後は14日午前5時まで、3者で交代しながら巡視を行いました。このような火入れを毎年継続することで、今後も小清水原生花園に美しい花々が咲き誇る風景が守られていきます。